

篠原舟吾研究会 成果報告書

ーデータ×アイデアで描く 2040 年の県庁所在地：水戸市を事例としてー

2024 年度 慶應 SFC 学会

C. 研究会合宿・研究会が主体となった学術交流活動

概要

今回の特別研究プロジェクトにおいて、篠原研究会は 2024 年 9 月 8 日(日)から 9 月 10 日(火)の 3 日間、2040 年における県庁所在地の在り方をテーマに、茨城県水戸市の調査を行った。本プロジェクトは、和歌山県主催の第 8 回データ利活用コンペティション「2040 年頃の理想のまち」へのコンペティションに向けたものである。

未来の在り方について適切にデータを分析し、地域に寄り添った提案を行うため、我々は市民センターの在り方に着眼点を置き、公共施設見学や市民や担当職員へのインタビュー等の現地調査を行った。

開催日程・場所

2024 年 9 月 8 日(日)～9 月 10 日(火) 茨城県水戸市

2024 年 9 月 24 日(火) 茨城県水戸市

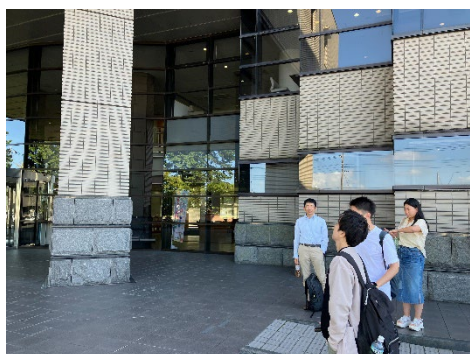
※本来 8 月 7 日に事前調査として予定されていたが、水戸市役所との調整により 8 月 28 日に変更、さらに台風の影響のため 9 月 24 日に延期した。

当日のスケジュール

日時	実施内容
9/8	公共施設見学(偕楽園、弘道館、水戸県立歴史館)
9/9	公共施設見学(市民センター7 カ所) インタビュー(各市民センター担当職員・水戸市役所市民生活課 担当職員)
9/10	公共施設見学(市民センター3 カ所) インタビュー(各市民センター担当職)
9/24	公共施設見学(わんぱく・みと (多世代交流センター)、水戸市総合教育研究所) 統計分析の実施

9/8 は、水戸駅周辺を中心として、現地調査を中心に行った。茨城県水戸市は城下町として発展してできた県庁所在地でもあるため、市が運営する歴史や芸術等に関する公共施設が多いことが特徴として挙げられる。かつては入場料が無料だったが、現在は有料で運営されていることも鑑み、施設利用にどのような影響を及ぼしているのか知るために調査

を行った。施設内で市民の方とお話しする機会にも恵まれ、水戸市に対する帰属意識や歴史についての考え方について知ることができた。



9/9 には、水戸市役所市民生活課 担当職員 2 名にご同行いただき、水戸市内の市民センター7カ所を見学した。7カ所については過去数年間の間に改修された施設から、今後改修が予定されており、昭和から運用が継続されている施設まで多岐にわたる。それぞれの施設には45分程度滞在し、施設見学や各市民センター担当職員へのインタビューを行った。我々は事前調査において市民センターに対するイメージを持って見学を行ったが、実情は想定と異なるものとなり、分析するにあたって新たな視点を与えてくれた。また、改修後間もない市民センターにおいては、改修時にパブリックコメントを積極的に出した婦人会の方からもインタビューを行うことができ、実際に出した施設への要望や現状、市民との協議の仕方について有意義な意見を伺うことができた。

9/10 においては、9日に見学した場所と比べて使用者数が少ない市民センター3カ所を選定し追加調査を行った。改修状況や地域別のサークルの特徴など、各施設の相違点を見出すことができた。

9/24 は8/28に実施予定であった事前調査の代替日として、9/8-9/10で収集したデータ分析を基にした追加調査を行った。市民センターが高齢者を中心として活用されていたことから、2040年という未来を背負う世代に着眼点を置き、多世代交流センターや教育総合研究所の見学を行った。全体として水戸市の特徴を肌で感じ、有意義な時間を過ごすとともに、分析に対する更なる視点を得ることができた。

研究成果と今後の展望

我々は現地調査を通して、市民センターにて行っている役割や市民側の要望、特に市民センターでの交流の在り方について学ぶことができた。机上では得られない生の声を感じ、既存のデータに対する見方を変えることができたと強く感じている。

この4日間の現地調査の実施後、我々は収集したデータを基に、県庁所在地における市民センターの在り方について統計分析を行っている。分析された内容は、2024年10月に和歌山県で主催される、第8回データ利活用コンペティション「2040年頃の理想のまち」にて、まちづくり案を発表するために活用される。